

各 位

浦安鐵鋼団地協同組合
景況実感調査委員会

浦安鐵鋼団地景況実感調査結果表
(2026年01月分)

ご協力ありがとうございました。2026年1月分の結果をお送りいたします。よろしくご査収ください。

調査対象 141 回答 132 回答率 93.6%

調査項目	前 年 同 月 比					計
	10%以上 増加・上昇・好況	やや 増加・上昇・好況	横這い・平常	やや 減少・下降・不況	10%以上 減少・下降・不況	
売上数量	12社	19社	46社	31社	24社	132社
	9.1%	14.4%	34.8%	23.5%	18.2%	
	(9.2)	(13.1)	(34.6)	(25.4)	(17.7)	
売上高	7社	20社	48社	27社	30社	132社
	5.3%	15.2%	36.4%	20.5%	22.7%	
	(8.5)	(13.8)	(30.0)	(26.9)	(20.8)	
在庫数量	6社	13社	75社	17社	16社	127社
	4.7%	10.2%	59.1%	13.4%	12.6%	
	(0.8)	(20.3)	(52.0)	(17.9)	(8.9)	
販売単価	1社	12社	70社	38社	11社	132社
	0.8%	9.1%	53.0%	28.8%	8.3%	
	(0.8)	(11.6)	(43.4)	(36.4)	(7.8)	
収益状況 (粗利)	8社	20社	49社	40社	14社	131社
	6.1%	15.3%	37.4%	30.5%	10.7%	
	(9.3)	(13.2)	(38.0)	(24.0)	(15.5)	
稼働率 (生産・加工設備)	3社	16社	58社	26社	14社	117社
	2.6%	13.7%	49.6%	22.2%	12.0%	
	(2.7)	(13.4)	(42.9)	(24.1)	(17.0)	
入出庫の トラック台数	3社	13社	68社	30社	14社	128社
	2.3%	10.2%	53.1%	23.4%	10.9%	
	(1.6)	(14.4)	(42.4)	(27.2)	(14.4)	
現在の 景況感	0社	4社	58社	43社	26社	131社
	0.0%	3.1%	44.3%	32.8%	19.8%	
	(0.0)	(0.8)	(46.5)	(29.5)	(23.3)	
3ヶ月後の 景況予測	0社	8社	94社	23社	6社	131社
	0.0%	6.1%	71.8%	17.6%	4.6%	
	(0.0)	(4.7)	(73.4)	(16.4)	(5.5)	
特記事項						

- 注 ①調査対象会社数は浦安に事業所の無い会社（不在地主など）は除外してあります
②()内の数字は前月のパーセントです
③結果表は全品種の動向として集計し、品種別の要因を取り上げる必要がある場合は
特記事項欄に別途記載いたします
④本調査の宛先等の変更は、浦安鐵鋼団地協同組合事務局までご連絡ください
事務局 TEL：047-350-5311 FAX：047-350-5316

景況実感調査(2026年1月)特記事項

毎月、景況実感調査にご協力頂きましてありがとうございます。集計結果は別紙にてお送りしましたが、今月もたくさんのコメントを頂きましたのでお送りします。ご査収下さい。

【お断り】寄せられたコメントは、各社担当者の現場の声です。個々の会社固有の状況にもとづくものも多々あります。業界全体及び浦安鉄鋼団地全体の見解とは必ずしも一致しませんので、お含み置きます。また、不穏当な表現やわかりにくい表現については書き直しております。信用問題にかかわるものも原則として掲載しておりません。

薄板・表面処理鋼板

- ① 前年同月比、前月比でも大きな下落はないが、浮上が見えない低位感がある。年始明け、トラック向けで稼働はどうか保てた状況。
- ② 今月も主力であるトラック向けの案件は堅調に推移し、前年同月比では小幅ながらプラスを維持している。一方で、店売り分野については需要・価格ともに力強さを欠く状況が続いている。本来であれば価格の下支えを図りたいところであるが、需要の戻りが鈍く、各社とも値上げに踏み切れる環境には至っていない。
- ③ 1月の販売数量は、前年同月比▲5%だったが、売上高でみると、単価が下がっていることもあり、▲10%以上と販売低調。需要低迷は継続している。

中板

- ① 中板は需要に変化は無く、年始も静かなスタートとなった。建築関連・建機関連は低位横ばいで推移し、店売りも相変わらず小口当用買いに徹している状況。市況については、ここしばらくは目立った安値も聞かれず横ばいで推移し、底値感も出てきている。今後の展開は需要動向次第。

厚板

- ① <全体感>各分野で需要は停滞を続けている。特に紐付き分野においては期末に向けた変動もなく、物件関係も案件が少ないことで切板・材料共に引き合いは少ない。<分野別>建産機分野は変化なく低位横這い。汎用中心の構成で販売数量のみならず売上も低迷している。来年度（2026年度）に関しては上期横這い、下期回復となっているが、販売状況によっては現状横這いが続く可能性も大きい。また、紐付き同様、セグメント等の土木関連（物件）も少なく、先々も大きな案件が見えてこない。
- ② 建設機械は、輸出向けの不透明感から減産もあり、売上も減少している。店売り関連は、鋼材の高騰や人手不足の影響で案件も少なく、売上も減少している。

一般形鋼・H形鋼

- ① 販売数量の減少が目下の最大の問題点。何処の顧客に行っても、仕事がないと言われる。与信上の問題も表面化しつつある。
- ② 依然として、メーカーは生産コスト上昇により売り腰は強基調。仕事が少しずつ出てきている感もあり、流通としては安値を払拭し販売価格の値上げを目指す。

- ③ コスト高によるメーカーの追加工賃上げが濃厚。メーカーも生産量が低下しているが、量は追わず採算確保に尽力する姿勢。そんな中、マーケットは昨年の値上げ分すら転嫁しきれずにいる。需要が振るわないのは元々分かっていたこと。メーカーはしっかり事業継続に向け舵を切ったと思われ、我々流通も事業継続且つ個社の機能継承のため、採算確保に真剣に取り組むべきだ。
- ④ 人手不足で現場が滞っている。

異形棒鋼

- ① 新年入り後も引合い少なく、荷動き不振は深刻である。メーカーは実行販売の値上げ姿勢を継続しており、市況は強含みの横這いである。我慢するしかない。
- ② 1月までは標準的だった。2月に入り、反動なのか動きが良くない。昨年は、3月から良かったので、今年も少しは良くなるのではと考えている。相場はメーカーが強く変わらず。

平鋼

- ① 形鋼類の値上げが浸透せず、平鋼の値上げはまだ厳しい。先行きの需要動向も不透明で、今年はこのままの状況か。秋以降に期待だが、それまでに適正価格になっていけば良いが。
- ② 1月の倉出し出荷は12月と変わらず横這いで推移。工場の加工残は12月・1月も受注が少なく、山積みも低い状態が続いている。3月以降の物件も皆無なので、引き続き情報収集をしていく。一部、産業機械関係や土木関係の引き合いや受注が12月から多くなっており、産業機械関係は4月頃まで忙しくなりそう。平鋼メーカーの値上げした玉が入り始めているので、形鋼の価格転嫁の時期を見ながら、慎重に話をしていきたい。

軽量形鋼

- ① 10月より受注量の減少が継続。年度末まで現状で推移の見込み。
- ② 大型物件の完了間近で数量減。上期は物件が少なく回復するのは下期以降の見通し。そのため安値受注を行う他メーカーも増えているが、一方、ADの影響による値上げアナウンスも行われている。

鋼管

- ① 売上数量、売上金額共に前年比横這いであるが、収益は悪化しており、数量増も期待できない状況。但し、2月より値上げの予定があり、収益改善に取り組みたい。

構造用鋼

- ① 需要は自動車向けで一部堅調も、全体としてはさえない状況。建機も海外の需要回復が薄く低位横這い。産機や工作機械も同様に明るい話題が聞こえてこない。店売りの荷動きも低位横這い。在庫はほぼ適量で、価格は局所的に安価も見られたが、高炉トラブルの影響か、一旦落ち着いた感じだ。

磨棒鋼

- ① 自動車向け紐付品は低位横這い。今後も中長期的には微減していくものと思われる。建産機向けは、若干回復傾向も勢いは弱い。店売品は設備関連のスポット品の受注が増えてきてはいるが、全体的には大きく変化していない。

ステンレス

- ① 足元の需要はさえないが、日本製鐵による昨年8月～今年1月にかけての累計3万円/トンの引き上げ分もあり、流通筋も値上げを打ち出し始めている。LMEニッケルの価格も8ドル/ポンドを超えてきている状況。ADの調査については、春頃に仮決定がなされる可能性があるとの報道もあり、引き続き注視していく。

その他

<スクラップ>

- ① 年明け以降、稼働率は日を追うごとに低下した。スクラップ価格は引き続き為替の影響を受けやすい展開となっており、メーカーの需給とはズレた形での価格形成が続いている。メーカーは製品販売が伸び悩む一方で、原料であるスクラップを高値で調達せざるを得ない状況にあり、円安が進行した場合、更に相場上昇の可能性も考えられる。

<金属表面処理>

- ① 扱い数量、売上共に前月比▲10%強。スポットの扱い量が3割減となり、引合いも小ロットが多く、2月も同水準の予想。継続物件と紐付きを中心に操業予定。